

6年生 いじめや差別をなくすために自分にできることを考える

～自分のことと重ねながら聴こう～ (5/17)

6年生は、伊賀市役所の生涯学習課にお勤めの川口素生さんを講師に招き、いじめや差別をなくすために、自分には何ができるのかを一人一人が振り返る機会をもちました。

はじめに、「人権」とは何かを考えました。川口さんからは、「人権とは、世界中の誰もがもっている権利で、自由で、自分らしく幸せに生きる権利」であることを教えてもらいました。さらに、「人権とは空気みたいなもので、目には見えないけれど、なくてはならないもの。なくては困るものである。」とも話されていました。そして、「世界中の人がいつでも誰でも吸える、当たり前のものであり、とても大事なものである。」とも教えてもらいました。

その後、1枚のりんごの絵を示しながら、「表からはおいしそうに見えていても、後ろから見ると、腐っていたり、誰かがかじっていたりするかも知れない。つまり、見たみだけで、決めつけたり、思いこんだりする意識こそが、差別やいじめを生み出している。」とも話されました。でも、そうした決めつけや思いこみは誰にでもあるので、まずは、そうした決めつけをしたり、思いこんだりして人を見てしまっている自分に気づくことが大切であるとも話されました。

そして、いじめや差別をなくしていく、あるいは許さない自分になっていくために、やってほしいこととして、次の2つのことを話されました。

①これまでの自分を振り返る。
決めつけたり、見た目で判断したりしている自分はいないか。

②人の気持ちを想像する。
人の気持ちは見えないけれど、想像できるようになってほしい。
「自分だったらどうだろう」って、自分の方に矢印を向けて考える子になってほしい。

そして、一人一人が、人権の学習の時間だけでなく、普段の自分を振り返ることができるようになっていくことで、「安心できる学級」になっていくとも話されました。

今回の出会いを、自分の方に矢印を向けて、これまでの自分を振り返るきっかけにしてほしいと思っています。



1・2年生 川東老人会の方にさつまいもや野菜の苗の植え方を教えてもらいました。(5/20)

今年も、川東の老人会の方にお手伝いいただきながら、1年生と2年生は、藤岡さんにお借りしている学校裏の畑にさつまいもの苗を、また、2年生は、プランターに野菜の苗を植えました。

老人会の方には、事前に来校いただき、黒いマルチもかぶせた畝づくりもしていただきました。

当日は、まず、野菜作りの「名人」さんから、さつまいもの苗について、「これから伸びていく部分は、土で隠してしまわないように植える」ことを教えてもらいました。その後、老人会の方にお手伝いいただきながら、苗を植えました。老人会の方には、子どもたちが植え終わったあと、1本1本、きちんと植えてあるか点検もしていただきました。

また、2年生は、ミニトマトやなす、オクラ等の夏野菜の苗の植え方も教えていただきました。野菜作りの「名人」さんからは、「オクラは、根付いたあとは、あまり水をあげなくてもよい」ことを教えてもらいました。苗を植えた後は、苗を支柱に紐で結びつけてもらいました。

最近では、子どもたちが、朝、畑に水やりに行くことが日課となっています。



運動会に向けて、みんなで草を引きしました。

環境・掲示委員会の呼びかけで、運動会に向けて、みんなで草引きをしました。

